

武庫川流域委員会委員長 松本誠様

武庫川天然アユ再生へ維持流量の新しい設定を！ 2010年6月16日

西宮市 奥川和三郎

第1の疑問点。武庫川の維持流量は、渇水対策に主眼をおいたのではないか。平成19年度第2回河川審議会「武庫川河川整備基本方針(案)(平成19年10月31日)」の「4、河川の整備の基本となるべき事項(13/14)」「(4) 主要な地点における流水の正常な機能を維持するための必要な流量に関する事項」

「維持流量の設定」、は前提としてa, bと2項目が明記されている。

a, 維持流量は、渇水時にも確保すべき最低限の流量と規定。

b, 区間毎に設定する項目別必要流量の最大値から設定とある。

以上の2項目を前提に、8項目の流量のうち3項目に流量を求めている。

① 動植物の生息地又は生育地の状況・魚業

「魚類の生息(産卵、移動、遡上、降下)に必要な流量

② 景観:「景観を損なわない水面幅等の確保に必要な流量

③ 流水の清潔の維持:「水質に関する基準を満足するために必要な流量」

以上の3項目を対象として設定したとしている。

以上の調査の結果、維持流量に、水利流量(本川を5区間に別けた)を考慮して、正常流量を生瀬橋で1.49m³/sとした。と報告されている。

問題点は、特に、当時武庫川のアユの調査はされていなかったことは承知の事実。規定どおり、渇水対策を主眼とした維持流量設定ではなかったのか。

(2) 第2に武庫川の特性、アユは「基本方針」の維持流量設定時にはまだ調査していなかった。「対象魚種を生態に関する既往の知見」によるとしている。

武庫川水系河川整備基本方針の「利水に関する資料(平成21年3月)」によると、アユの報告がある。維持流量は9ページ1項目めの①動植物の生息に必要な流量と漁業の項目の「対象魚種」があげられ、生態に関する「既往の知見により」グルーピングし、代表魚種を選定したとある。そして、「既往の知見に基づき」、流量はつくられた。

アユは川幅、水量も影響するが、水深20cmから30cmを必要とすると言われる。しかし、「既往の知見」では水深は15センチとしている。川幅は記載がなくて不明、区分、四季、時期も不明である。武庫川の特性、アユの実態調査、事実にもとづき、検討設定されたものではない。アユの遡上減少は、開発、横断障害物、魚道の不備や産卵場等、環境の保全と整備がかえりみられなかったこと等が要因だろう。

豊かな水量を復元し、アユの、遡上、産卵にふさわしい維持流量を考えた魅力ある川づくりをめざし、アユの維持流量を新しく検討すべき時ではないか。基本方針でも新しい事態に際しては、関係機関での調節可能としている。考慮して頂きたい。本年5月、1日1000匹のアユが目視され河口で16cmの天然アユも現認されている。以上